

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	特定保健指導の実施データを用いた管理栄養士の指導の質に関する検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	榛葉 有希
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	保坂 利男
		所属・職名	食品栄養科学専攻・博士後期課程	氏名	金澤 千聖
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	榛葉 有希

講演題目
特定保健指導の実施データを用いた管理栄養士の指導の質に関する検討
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】 特定保健指導は、メタボリックシンドロームの予防、改善を目的として、2008 年から開始された制度である。100 人～1100 人までの比較的小規模集団を対象にした研究のメタ解析結果では、特定保健指導の実施により体重や腹囲、血圧などが改善することが報告されているが、75,000 人の対象者の解析結果では、特定保健指導の実施は体重をわずかに減少させるのみだったという矛盾した報告がある。この理由として、特定保健指導の指導者によって経験が異なり、行動目標の設定内容にばらつきがある可能性が考えられる。 そこで本研究では、特定保健指導実施データを用いて、特定保健指導の実施実態を明らかにし、特定保健指導の指導内容改善に繋げることを目的とした。 【成果および今後の展望】 本学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 6-27）。今年度は指導時の目標についての分類・体系化を実施した。具体的には、提供を受けた 264 件の指導記録から 633 個の目標を抽出した。表記ゆれや誤字などのデータクリーニングを実施後、栄養指導経験を有する管理栄養士 2 名が独立して目標の分類を実施し、その後両者の分類を合議にて一致させたデータを用いた。その結果、264 件の指導のうち、2 個の目標を設定していた指導が最も多かった（35%）。そして 633 個の目標のうち、間食に関する目標が 43%と最多であり、次いで主食（24%）、野菜（22%）に関する目標が設定されていた。本研究では、各目標が栄養学的に妥当かを評価できるデータが取得できていないものの、間食と主食、野菜に関する目標で大半の目標が占められているため、比較的指導が容易と思われる間食や主食、野菜摂取に指導内容が集中している可能性がある。従って、間食や主食、野菜について適切なアセスメント方法を指導者に教育する必要性や、より具体的に実現可能性の高いアドバイス方法について教育を実施する必要があると考えられる。現在より対象施設を拡大の上、詳細な解析を実施中である。間食や主食といった各カテゴリー毎どのような目標が立案されているかを体系化し、経験が少ない管理栄養士でも短期間で栄養指導が習熟できるようなエビデンス構築を目指したい。